

食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和6年度実施状況等について

1 食品ロス削減推進計画について

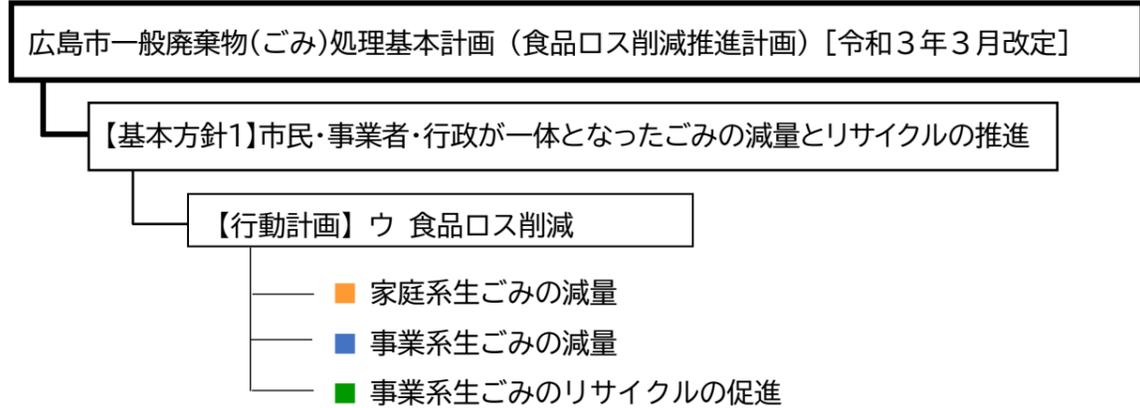
(1) 概要

食品ロス削減推進計画は、「食品ロスの削減の推進に関する法律」（令和元年10月施行）及び「広島市食品ロス削減推進条例」（令和5年4月施行）に基づき、本市における食品ロス削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定するもので、令和6年度までは令和3年3月に改定した「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の中の食品ロス削減に係る行動計画を推進計画として位置付けている。

なお、令和7年度以降は、令和7年3月策定の「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の第8章を推進計画とし、削減目標を定めるとともに、目標達成に向けた施策を示している。

(2) 施策展開

令和3年3月改定の「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」における「基本方針1 市民・事業者・行政が一体となったごみの減量とリサイクルの推進」を推進するための行動計画「ウ 食品ロス削減」に基づき、3つの観点で施策を展開した。



2 実施状況の報告について

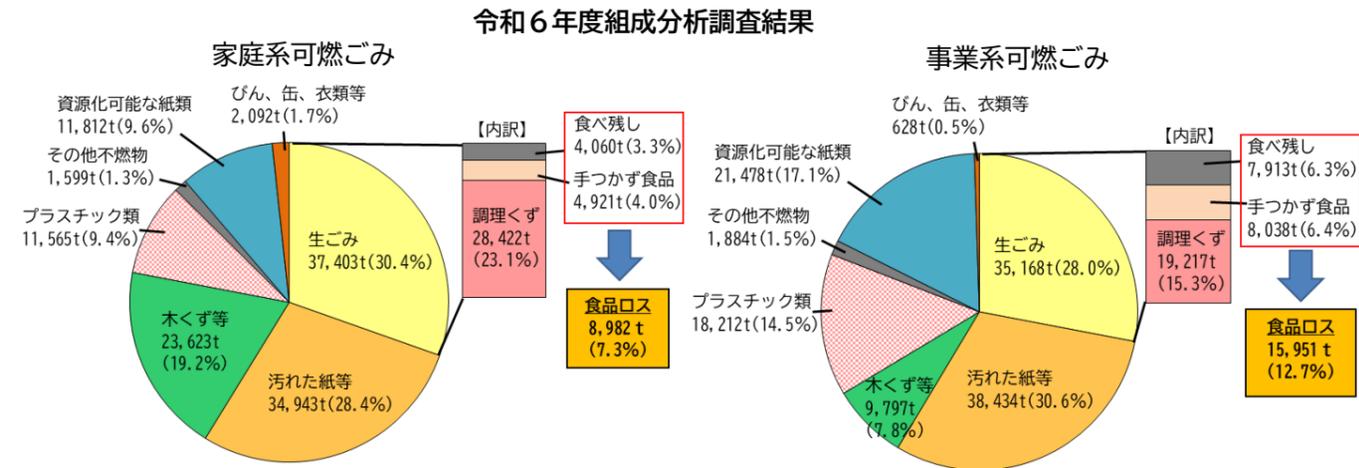
広島市食品ロス削減推進条例第7条第6項において、「市長は、毎年、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会に報告するとともに、これを公表するものとする。」とされていることから、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会において、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を報告し、公表する。

3 食品ロス量

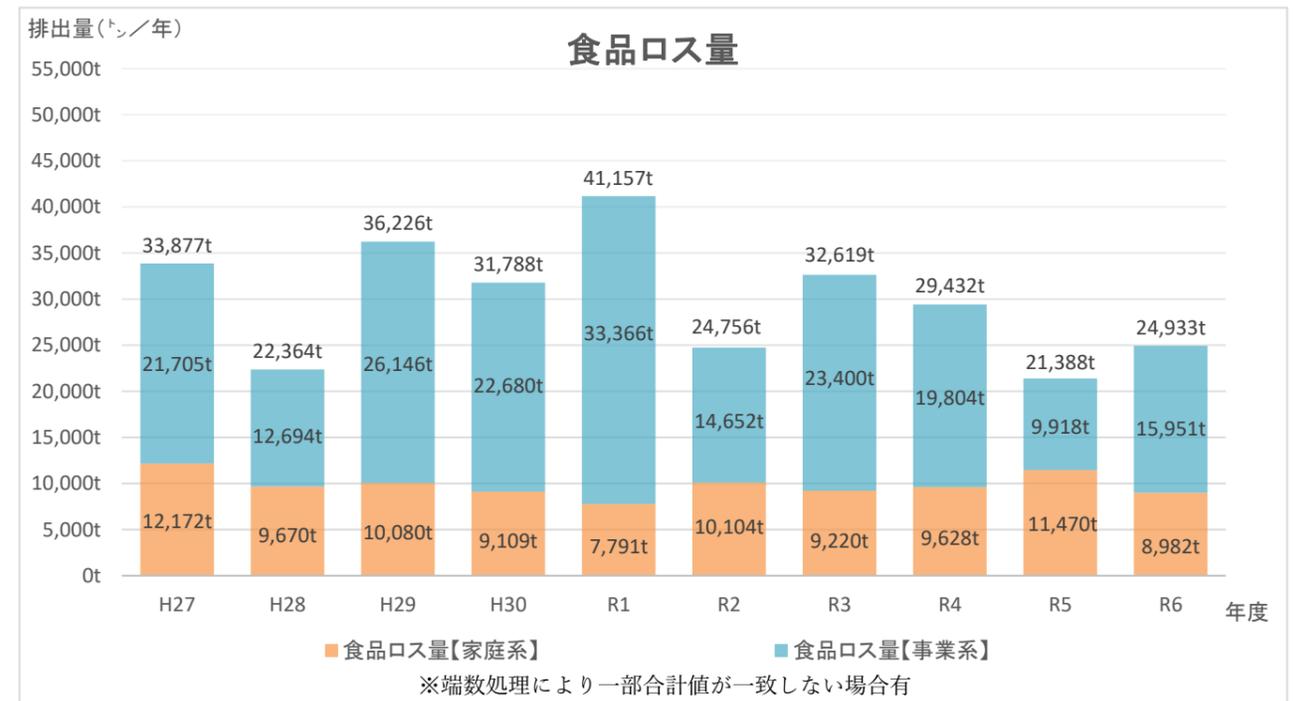
(1) 令和6年度の食品ロス量

家庭系食品ロスの割合は、家庭系可燃ごみ全体の7.3%、生ごみのうちの24.0%となっており、その量は8,982tと推計される。

事業系食品ロスの割合は、事業系可燃ごみ全体の12.7%、生ごみのうちの45.4%となっており、その量は15,951tと推計される。



(2) 食品ロス量の推移（H27～R6年度）



家庭系	前期（H27～R1）の食品ロス量の平均値は約9,800t、後期（R2～R6）の平均値は約9,900tであった。→わずかな増減を繰り返しながら、ほぼ横ばい傾向
事業系	前期（H27～R1）の食品ロス量の平均値は約23,000tで、後期（R2～R6）の平均値は約17,000tであった。→年度ごとのばらつきはあるが、概ね減少傾向

4 令和6年度の施策の実施状況

(1) 家庭系生ごみの減量

ア 食品ロス削減推進計画に基づく施策

■「ごみ減らそうデー」の実施

毎月1日を「ごみ減らそうデー」とし、スーパーマーケットの店頭でのパネル展示やアンケートの実施等により、買物客に食品ロス削減の取組等と呼びかけた。また、8月にはリサイクル工作教室を同時に開催した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	7回 (7月荒天中止)	8回	△1回

《今後の方針》

食材を購入する市民に対して直接呼びかける有意義な機会であるため、今後も各家庭での食品ロス削減の取組を実践してもらえよう、市民団体等とも連携して店頭での呼びかけを強化する。



■食品ロス削減イベントの開催

食品ロス削減の日（10月30日）付近の休日（10月27日）に、市内中心部において、市民を対象としたイベント「スマイル！ひろしま広場」を開催し、食品ロス削減に関するクイズやパネル展示、フードドライブ等を実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施場所	シャレオ中央広場	広島駅南口地下広場	—
クイズ参加人数	322人	217人	+105人
フードドライブ実績	70個	120個	△50個



《今後の方針》

ステージ発表の実施、同日に近隣で開催される他イベントと連携など、さらに多くの市民へ参加を促す取組となるよう内容の充実に向けて検討を行う。



■学生との連携

○エコクッキングレシピ動画の作成、エコクッキング教室の開催
広島工業大学と広島女学院大学の学生がエコクッキングレシピ動画を作成し、市ホームページやYouTubeで公開した。また、安田女子大学の学生が講師を務めるエコクッキング教室を2回開催した。

○エコクッキングレシピの試食

食品ロス削減イベント「スマイル！ひろしま広場」において、安田女子大学の学生が考案したエコクッキングレシピの試食提供を行った。

○フードドライブの開催

平成28年度から広島文教大学の大学祭において、学生が主体となったフードドライブを実施しており、令和6年度は301個の食品提供があった。

《今後の方針》

より多くの学生に、食品ロス削減につながるエコクッキングのレシピやレシピ動画の作成、教室の開催に携わってもらい、若い世代が食品ロス削減について考える機会を提供する。



■生ごみリサイクル講習会の開催

段ボールを用いて家庭で生ごみを堆肥化する方法を紹介する講習会を公民館で開催した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	4回	4回	±0回
参加人数	41人	110人	△69人

《今後の方針》

多くの市民に、家庭でできる生ごみのリサイクルに係る取組を周知するため、引き続き、身近な環境について考える機会を提供する。



■環境講座の開催

家庭ごみの分別・減量・リサイクルや食品ロスの削減をテーマにした環境講座を、公民館等で実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	17回	23回	△6回
参加人数	384人	478人	△94人

《今後の方針》

食品ロス削減の関心も高く、身近なテーマであるため、アンケートも参考にしながら、より市民が実践できるような講座内容となるように努める。

■エコクッキング教室の推進

環境問題に関する公民館学習会として、エコクッキングの講座を実施し、食品ロスの削減や、日々の生活の中でできる取組について学び、身近な環境について考える機会を提供した。



	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	20回	22回	△2回
参加人数	303人	307人	△4人

② エコなクッキングでランチ 要申し込み

エコで美味しいランチはいかがですか。

【日時】3月2日(日) 10時～12時
【対象】どなたでも【定員】12名(先着順)
【講師】フードコーディネーター 高橋 敦子さん
【内容】エコクッキング
【材料費】800円
【持参物】エプロン、三角巾、食器用ふきん、マスク、手ふきタオル、筆記用具
【申し込み】2月27日(木)までに公民館へ
※申し込み期間終了後のキャンセルは、準備の都合上、材料費をお返しできませんので、ご了承ください。

おいしい！子どもかんたん！エコクッキング

旬のものや、地元の食材を使ったエコクッキング教室。食材を余すことなく使い、わたしたちができるエコについて考えてみませんか？

▼対象・定員 小学生 16名(申込順)
▼日時 6月2日(日) 10:00～13:00
▼場所 古田公民館
▼講師 広島県栄養士会 大倉 由美さん
▼持参物 マスク、エプロン、三角巾、ふきん、手拭き、飲み物
▼申込 5月24日(金)までに古田公民館窓口または電話で
▼共催 広島市環境局

③ 親子でエコクッキング 参加費無料

■日時：8月3日(土) 10:30～12:45
■会場：中野公民館 実習室(3階)
■対象者：小学生と保護者(保護者1名につき小学生2名まで)
■メニュー：お野菜まるごとナポリタン、ミルクプリン
■講師：野菜ソムリエ上級プロ 花井 綾美さん
■定員：8組【先着順】
■持参物：エプロン、マスク、三角巾、食器用ふきん、ハンドタオル、飲み物、筆記用具
■申し込み：7/28(日)までに、中野公民館へ電話または来館で
■共催：株式会社フレスタ、中野公民館

《今後の方針》

多くの市民に、家庭でできる食品ロス削減の取組を周知するため、引き続き、身近な環境について考える機会を提供する。

■環境イベント等でのフードドライブ等の実施

環境をテーマとしたイベント等においてブースを出展し、食品ロス削減等に関するクイズやパネル展示、フードドライブを実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	8回	6回	+2回
クイズ参加人数	980人	630人	+350人
フードドライブ実績	1,387個	771個	+616個



《今後の方針》

より多くの市民に啓発できるよう、出展回数の拡大を図る。また、スーパーマーケット等の事業者が実施するフードドライブについても、市ホームページ等を通じて引き続き周知を図る。

■食品ロス削減に関する表彰の実施

「広島市食品ロス削減推進表彰」を初めて実施し、以下の3者を表彰した。受賞者の取組を本市ホームページやチラシ等で紹介した。

受賞者	取組
株式会社 イズミ	フードドライブの実施、フードロス削減推進ポスターの募集等
社会福祉法人正仁会 フードバンク事業あいあいねっと	フードバンク活動、食品ロス削減の講義、食品ロスに関する本の出版等
学校法人武田学園 広島文教大学	フードドライブ活動、循環型農業の実践、親子エコクッキング教室の開催等

《今後の方針》

引き続き表彰を実施するとともに、表彰式を食品ロス削減イベント内で開催し、受賞者の取組をより多くの市民に知ってもらうことで、食品ロス削減の意識の醸成を図る。また、市ホームページ等で受賞者の取組事例を紹介する。



■食品ロス削減推進サポーターの育成の推進

地域等において食品ロスの削減を担う人材を育成するため、食や環境問題に一定の知見を有した個人や団体の会員向けの講座の受講を関係団体等に呼び掛け、サポーターの育成を推進した。

※食品ロス削減サポーター制度は、令和4年度に消費者庁が創設

●本市のサポーター登録者数165人 ※政令市1位(令和7年1月時点)

《今後の方針》

本市が実施するイベントや講座等の啓発活動をサポーターと連携して実施するなど、本市との協働のあり方について検討を行う。

■家庭系廃食用油の回収の促進

民間事業者等が行っている家庭系廃食用油の回収について、その回収場所等を本市ホームページやチラシを通じて周知した。また、回収に協力する店舗等に対して、幟旗の配付などの支援を行った。

広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会に併せて開催した勉強会において、ENEOS株式会社が、「家庭系廃食油の利活用(SAF化)に関する国内外の動向等について」というテーマで講演し、事業者の理解を深めた。

《今後の方針》

家庭系廃食用油の店頭回収場所を増やすとともに、その利用を促進するため、広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会やごみ減らそうデーにおいて周知を行う。



■その他の施策

取組名	令和6年度実施状況
ごみ減量・リサイクルに関するチラシ等の作成	(ア)食品ロス削減を含むごみ減量・リサイクルに関するチラシを作成し、町内会等を通じて配布した。 (イ)市内への転入者等に配付しているごみ出しハンドブック「ひろしまエイト」で、食品ロス削減について周知を図った。
フードバンクに関する周知啓発	フードバンクの概要や市内で活動するフードバンク団体等について、チラシや市ホームページにより周知を図った。
ごみ減量啓発DVDの市民への貸出及びYouTubeでの公開	食品ロスの削減を含むごみの減量やリサイクルの方法などを紹介したDVDを、市内の小・中学校における環境教育で活用したほか、市民等に無償で貸し出すとともに、YouTubeで公開した。
こどもたちに向けた周知啓発	小学校3・4年生を対象とした学習教材「わたしたちの広島」と「ごみのおはなし」に、食品ロスの現状や身近にできる食品ロス削減の取組等を掲載し、周知啓発を図った。また、児童が夏休み中に行う「こどもエコチャレンジ」の取組に「残さず食べる」ことを掲げ、食品ロス削減を実践することで、食品ロス量の削減と啓発を図った。 ●エコチャレンジ取組学校数、人数 138校、45,630人
啓発パネル等の啓発物品の貸出	ごみの減量・リサイクルや、食品ロスの削減をテーマとしたパネルや幟旗の貸出しを行った。 【貸出回数】9回
パネル展示等の実施	食品ロスやSDGs、環境等についての図書展示等を図書館で実施し、食品ロスの削減に向けた実際の行動を促した。 【実施回数】21回

イ その他の関連施策

■エシカル消費の普及啓発

一人一人の消費行動が、人や社会、環境に影響を及ぼすことに配慮して、消費者が自主的かつ合理的な消費行動ができるよう、エシカル消費に関する意識を高めるための情報提供や啓発活動等を実施した。



(ア)エシカルマップの作成

エシカル消費に関連する商品を扱う店舗やエシカル消費に関連する取組等が身近にあることを周知するため、12月16日から市ホームページに特設サイトとして「広島市エシカルマップ」を公開した。

(イ)平和記念式典での普及啓発

広島平和記念式典の冷水サービスにおいて、エシカル消費に関するポスターを掲示した。

(ウ)広報紙等を活用した啓発

媒体	テーマ
広報紙「市民と市政」12月15日号	毎日の生活にエシカル消費を
広報番組「鈴木福のミミヨリ!ひろしま」12月8日放送	エシカルマップでエシカル消費!
消費生活情報紙「知っ得なっとく」No.218	「広島市エシカルマップ」の紹介

(エ)講座の実施

- ・エシカル消費に関する出前講座を開始した。
- ・広島市立広島商業高等学校の生徒に対し、エシカル消費に関する講座を行った。

(オ)展示ブース出展等

- ・「koi koiふれあい水辺フェスタ」
- ・「広島みなとフェスタ」
- ・食品ロス削減イベント「スマイル!ひろしま広場」(広島市立広島商業高等学校と連携)
- ・そごうでのパネル展(市環境政策課及び広島市立広島商業高等学校と連携)
- ・「ごみ減らそうデー」店頭キャンペーンに併せてエシカル消費に関するチラシ配布



《今後の方針》

引き続き、市の広報媒体の活用や各種イベントへの出展など、様々な機会を捉えてエシカル消費の啓発活動を行う。また、新たに公開した「広島市エシカルマップ」の内容の充実を図る。エシカル消費の普及啓発について現状を分析し、効果的な啓発活動を検討・実施する。

■わ食（和食・輪食・環食）の推進

健全な食生活を実践する市民を増やすため、毎月19日の「わ食の日」を周知するとともに、様々な機会や場面を活用した3つの「わ食（和食・輪食・環食）」に関する啓発活動を行った。

(ア) SNS等を活用した周知

「わ食の日」に合わせ、市公式SNS（X、Facebook、LINEVOOM）に記事及び「わ食の日」啓発動画を投稿するとともに、6月の食育月間にはデジタルサイネージで啓発動画を放映した。また、市公式YouTubeで「和食」や「環食」に関する料理レシピを周知した。



(イ) 企業やマスコミと連携・協働した取組

ひろしま食育ネットワーク参加団体に登録している企業と広島県の郷土料理に関する教室を開催し、「わ食」について周知した。また、6月の食育月間に、民間ラジオ放送局と連携し「わ食」について情報発信した。

(ウ) 各種イベント等での広報

「わ食」を啓発するチラシを、食品ロス削減イベント「スマイル！ひろしま広場」等の様々な場面で配布した。

《今後の方針》

引き続き、「わ食の日」を周知するとともに、様々な機会や場面を活用した3つの「わ食（和食・輪食・環食）」に関する啓発活動を行う。

■食農推進事業

市内産・新鮮・安心な“ひろしまそだち”製品の消費拡大に向け、市民が気楽に食農体験ができる機会を拡大し、「食」と食を支える「農」に対する理解を深める取組として、食農体験イベントの実施や食農コーディネーターの育成などを行った。

(ア) 食農体験イベントの実施

市民を対象とした栽培から収穫、調理・試食までの体験会を実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	4回（4品目）	4回（4品目）	±0回
参加者数	75人	104人	△29人

(イ) 食農コーディネーターの育成及び活動支援

食農体験の企画・運営を行うための人材の育成研修を実施するとともに、フォローアップ研修についても実施した。これらに加えて“ひろしまそだち”製品情報の提供等も実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
認定者数	55人	55人	±0人
実施回数	142回	138回	+4回
参加者数	2,628人	3,073人	△445人

(ウ) 農産物栽培展示の実施

区役所、小学校及び民間施設等で、野菜や水稻の栽培展示を実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施施設	6か所	6か所	±0か所

(イ) 「食」と「農」に関する授業の実施

小学校が実施する農作物の栽培等について、市職員や農家を講師として派遣した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	8校	7校	+1校

《今後の方針》

引き続き、“ひろしまそだち”製品の消費拡大に向け、「食」と食を支える「農」に対する理解を深める取組として、食品ロス削減に対する意識の醸成にもつながる食農体験イベントの実施や食農コーディネーターの育成を行う。

■食育リーフレットの作成

学校における食育を推進するため、栄養バランスの良い食事や望ましい生活習慣、食文化、地産地消、食品ロスの削減等、小学1年生から中学3年生までの各学年の学習内容に応じたテーマで食育リーフレットを作成し、これを活用した食育の指導を行う。

令和6年度は、全中学校の2年生、3年生及び全小学校の5年生に食品ロスをテーマとしたリーフレットを配付した。

また、リーフレットは保護者向けの内容も掲載しており、家庭への啓発も図った。

	児童・生徒向け	保護者向け
小学校5年生	学校給食で提供している「ひろしまっこ汁」は、だしで使ったちりめんいりを汁の実として食べることを例に、食品ロス削減について紹介した。	
中学校2年生	日本は多くの食料を輸入している一方で食品廃棄も多いこと、また食料自給率や食品ロス削減に着目させ、食品ロスを減らすためにできることを考えるよう促した。	エコクッキングやフードマイレージ（食料の輸送量に輸送距離をかけあわせた指標）について紹介した。
中学校3年生	地産地消や食品ロス削減について紹介し、環境に配慮した食生活について考えるよう促した。	食材を無駄なく活用する例として、ちりめんいりでだしをとり、汁の実としてそのまま食べることができるみそ汁など、エコクッキングについて紹介した。



《今後の方針》

小学5年生、中学2、3年生以外にも食品ロス削減について啓発できるよう、取り組む。

■学校における各教科の指導の充実

発達段階に応じて、食品ロスへの理解の醸成やその削減に向け主体的な行動を促すことを目的に、各教科等の学習活動を通じて指導を行った。

○小学校

社会科	社会科副読本「わたしたちの広島」に掲載されている食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」について調べ、広島市で行われているごみを減らす取組について考える学習活動等を行った。
家庭科	調理実習を行う際、事前に地産地消や食品ロスについて調べて考える学習を行った上で、野菜の皮むきや食べ残しを少なくするための切り方を工夫する学習活動等を行った。

○中学校

社会科	世界の貧困問題について学習する際に、先進国の食品ロスの現状から貧困の起こる理由を考察し、自分に何ができるかを考える学習活動等を行った。
技術・家庭科（家庭分野）	食生活について学習する際に、食品ロスや食料自給率等の現状について調べた上で、持続可能な食生活のためにどのような工夫をすることができるかを考える学習活動等を行った。

○高等学校

地理歴史科	食料問題について学習する際に、発展途上国の貧困や飢餓、先進国の食品ロス等の食料問題の解決に向けて、各国あるいは国際的にどのような取組をすべきかを考察する学習活動等を行った。
家庭科	食生活について学習する際に、フードマイレージ等の環境に配慮した食生活を実践するとともに、食品ロスや食料自給率等の現状を踏まえ、持続可能な食生活のためにどのような工夫をすることができるかを考える学習活動等を行った。

○独自の取組

広島市立広島商業高等学校では、毎年12月に開催しているピースデパートにおいて、エシカル消費の啓発として地域企業と協同で行う地産地消の商品の販売や食品ロスの削減を来場者に提案するなどの取組を行った。

《今後の方針》

学習指導要領に則り、引き続き発達段階に応じた指導を実施していく。

(2) 事業系生ごみの減量

ア 食品ロス削減推進計画に基づく施策

■「食品ロス削減協力店」の登録・PR

量り売りや小分け売りなどに取り組む小売店等と、料理の食べきりなどに取り組む飲食店や宿泊施設を「食品ロス削減協力店」として登録し、市ホームページでPRするとともに、ポスターやステッカー、幟旗を配布した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
店舗数	681店舗	656店舗	+25店舗

《今後の方針》

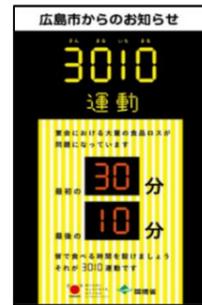
協力店増加ため、一般社団法人広島市食品衛生協会が実施する「食品衛生責任者実務講習会」において、講習会へ参加する飲食店や小売店等の食品衛生責任者に対し、食品ロス削減の意義を伝えるとともに、協力店への登録を呼びかける。



■ 外食時の食品ロス削減の推進

(7) 「3010 (さんまるいちまる) 運動」の周知

外食時には食べられる量だけを注文し、料理をおいしく食べることや、宴会において最初の30分と最後の10分は料理を楽しむことで、食べ残しを減らす「3010運動」(さんまるいちまる運動)について、市ホームページを活用した周知を行った。



(イ) 「ぶちええね! 食べきりキャンペーン」の実施

12~1月の宴会シーズンに「食品ロス削減協力店」に登録している飲食店等と連携し、料理を食べきった利用客に「広島広域都市圏ポイント (としポ)」を付与する取組「ぶちええね! 食べきりキャンペーン」を実施した。令和6年度は広島県の「減らそう食ロス広島アクション」と共同で実施した。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施店舗	62店舗	22店舗	+40店舗
利用者数	265人	61人	+204人

《今後の方針》

飲食店等で、料理を食べきれずに食べ残しを持ち帰る場合において、国の「食べ残し持ち帰り促進ガイドライン」に基づき、食品ロス削減の意義や食品衛生上の留意事項等を周知し、飲食店等や消費者双方の持ち帰りに対する意識の変化や行動変容を促す。

また、「ぶちええね! 食べきりキャンペーン」では、より多くの市民が参加する実施スキームの検討を行う。



■ スーパーマーケット等と連携した「てまえどり運動」の実施

販売期限が過ぎて廃棄される食品が削減されるよう、買ってすぐ食べる場合には、商品棚の手前に並べられている消費期限・賞味期限が近い商品や値引き商品を積極的に選ぶ「てまえどり」を呼びかける運動を実施した。

《今後の方針》

てまえどりに取り組む事業者や、てまえどりを実践する市民を増加させるため、ポップやポスターを掲示する店舗を増やすとともに、環境講座やイベントにおいても取組を周知する。



■ 勉強会の開催

広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会の開催に併せて、食品ロス削減を促進する優良事例を紹介する勉強会を開催した。

テーマ	事例発表者
ハローズモデルによる食品ロスの削減	株式会社ハローズ
家庭系廃食油の利活用 (SAF化) に関する国内外の動向等	ENEOS株式会社

《今後の方針》

引き続き、事業者の実施している優良事例を実行委員会メンバーで共有し、事業者の取組が広がるよう支援する。

■ その他の施策

- 環境講座の開催 (再掲)
- 食品ロス削減に関する表彰の実施 (再掲)
- 食品ロス削減推進サポーターの育成の推進 (再掲)
- フードバンクに関する周知啓発 (再掲)

イ その他の関連施策

■ 商品寄贈による社会福祉貢献活動

令和4年度に株式会社セブン-イレブン・ジャパン (以下「セブン-イレブン」という。)、広島市社会福祉協議会 (以下「市社協」という。)、本市との間で締結した「商品寄贈による社会福祉貢献活動に関する協定」に基づき、セブン-イレブンは県内店舗の閉店・改装時の在庫商品を、市社協を通じてNPO法人やボランティア団体等の福祉活動団体等に無償提供することにより、福祉活動団体等の支援・育成を通じた福祉活動の促進や生活困窮者等への支援に取り組んでおり、本市は広報等の支援を行った。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
実施回数	19回	5回	+14回
寄贈数	段ボール 499箱分	段ボール 224箱分	+275箱分

《今後の方針》

より多くの食品を有効活用できるよう他事業者との連携も検討する。

■ 6次産業化サポート事業

6次産業化に取り組む農業者、林業者を支援するため、農林製品の加工品製造研修の実施、パッケージデザインや販路開拓などに係るアドバイザーの派遣等を行った。また、アドバイザー派遣により、自社の農産物を使用した加工品の開発等を支援し、規格外等の農産物の有効活用にも繋げた。

	令和6年度	令和5年度	対前年度
派遣回数	1回	2回	△1回

《今後の方針》

引き続き、農林製品の加工品製造研修の実施、パッケージデザインや販路開拓などに係るアドバイザーの派遣を行っていく。

■ その他の施策

- エシカル消費の普及啓発 (再掲)
- わ食 (和食・輪食・環食) の推進 (再掲)
- 食農推進事業 (再掲)
- 食育リーフレットの作成 (再掲)
- 学校における各教科の指導の充実 (再掲)

(3) 事業系生ごみのリサイクル促進

ア 食品ロス削減推進計画に基づく施策

■ 食品リサイクル・ループ形成に向けた取組

野菜の皮や芯、魚のあらなどの調理くずや食品ロスを肥料や飼料にリサイクルし、その肥料や飼料を使って野菜や魚などを育てる循環型のモデル「食品リサイクル・ループ」の認知度向上に向け、本市オリジナルロゴを使用したポップやチラシを事業者提供した。また、町内会等を通じて配布するごみ減量啓発チラシにも取組を掲載した。

食品リサイクル・ループを一層推進するため、広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会委員に対して、取組状況に関するアンケートを実施するなど、取組を進める上での課題を整理した。

《今後の方針》

令和7年度の広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会に併せて、食品リサイクル・ループの具体的な取組事例の周知や事業者同士の情報交換の場となる勉強会、食品リサイクル・ループの取組を実施している事業者と関心はあるものの課題を抱えている事業者との情報交換を開催し、取組を促進する。また、食品廃棄物の飼料・肥料化に係る経費に対する補助や、生産者等との調整等、食品リサイクル・ループに取り組む事業者等への支援策を検討する。



■ 食品リサイクル施設の周知

本市ホームページに近隣市町の食品リサイクル施設を掲載し、食品関連事業者等に周知を図った。

《今後の方針》

令和7年度の広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会に併せて開催する勉強会において、近隣市町の食品リサイクル施設の情報を周知し、食品リサイクルの促進を図る。